

北九州支部予選

準決勝 決勝

(7日・桃園球場ほか)

# 八幡南春夏連続



2季連続の全国出場を決めて笑顔がこぼれる八幡南ナイン

▼決勝

八幡南	0	1	3	7
小倉	0	0	0	1
	1	1	1	1

(4回コールド)

【南】吉田翔一(ノバ)、柳瀬(大山)▽三塁打▽藤本、田中、石村(南)▽山田(小)▽二塁打▽石川(小)

## 4回コールド圧勝

走攻守、全てに圧勝だった。八幡南が11-1の4回コールドで春は2年ぶり、夏連続の全国大会に名乗りを上げた。

積極的な走塁で勢いを付けた。2回1死一、一塁。柿原颯太の右飛で二塁走者の田中雄揮がタッチアップ。三塁への送球間に石村



▲▲ 決勝の4回、小林風雅の三塁内野安打で二塁から生還した阿部堅真

優典も二塁に進んだ。石村は続く森木悠登の中前適時打で本塁を狙った。結果はタッチアウトだったものの、ガッツは仲間に伝わった。

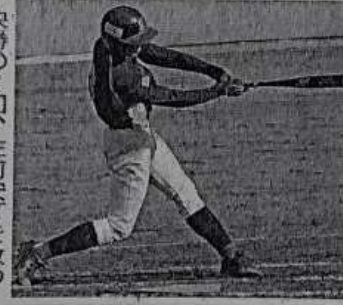
4回には内野安打で2点を奪った。1死満塁で小林風雅が三塁内野安打。三塁走者の森木に続き、二塁走者の阿部堅真も本塁を陥れた。ベンチは大盛り上がり。

勢いに乗った八幡南打線は、その後も田中、石村の三塁打などでこの回7点を入れた。徳野晴美監督は「走塁は普段から厳しく言っている。ちょっとでも前に行こう」とうなずいた。

## 堅守!! 大会無失策

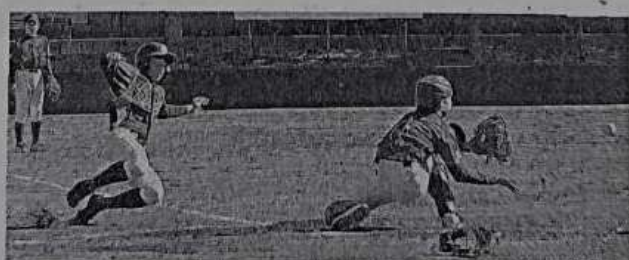
大会を通して無失策。今大会から本格復帰した二塁の藤本颯海、三塁の阿部らが手堅い守りで3戦計1失点の投手陣をもち立てた。

打撃では田中が3戦計6打数6安打の打率10割。大会直前に左手首を痛めた影響で4番から6番や9番に下がったが、準決勝では2打席連続のランニング本塁打を放った。指揮官は「藤本や阿部はいい守備をした。田中もよく打ってくれた」とたたえた。



▲▲ 決勝の2回、左前安打を放つ田中雄揮

松山響騎主将は「みんな元気が良く、週6日練習している成果を出せた」と総括。そして「目標は全国制覇。今よりもっと力をつけるため、冬季練習を頑張りたい」と力を込めた。



▲▲ 2回戦の4回、阿部堅真の右前適時打で二塁走者の藤本颯海がホームイン

## V 候補筆頭が圧勝

【八幡南】優勝候補筆頭が投打に力を発揮して2回戦を8-0のコールド勝ち。

左腕の吉田翔は「調子は上がっていた。直球やカーブが良かった」と5回参考ながら8奪三振のノーヒットノーランだった。

この試合は右手首を痛め

て戦線を離脱していた藤本颯海が2番・二塁でスタメン復帰。「1年以上、試合に出ていなかった。緊張したけどヒットを打てたから良かった」と1安打と好走塁で勝利に貢献した。

▼準決勝

八幡南	1	1	0	3	3
八幡ひびきの	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0

(6回コールド)

▼2回戦

北九州中央	0	0	0	0	0
八幡南	0	3	1	4	X
	0	0	0	0	0
	8	0			

(5回コールド)

【南】吉田、小林(一ノ瀬)【中】森田(大原)【南】吉田翔一(一ノ瀬)▽三塁打▽吉田翔(南)▽二塁打▽森木、田中(南)